

# 議 会運営委員会所管事務調査

## 研修報告

委員長 多賀 勝丸

議会運営委員会は7月29日・30日の2日間の日程で、大分県玖珠郡九重町議会と、速見郡日出町議会の二町の議会を議会運営委員6人正副議長、議会事務局長の9人で、議会運営委員会の運営状況や議会活性化に向けた取組、町のそれぞれの取組について研修を行った。研修初日九重町については平成21年4月現在で人口1万1,124人、3,936世帯と人口や世帯数はわが和水町とほとんど同じであるが面積は271kmとわが町の約2・5倍のぼう大な広さの面積である。大分県の南部に位置し10有余の標高800m〜1,700mに達する九州の屋根と言うべき名連峰なる九重山群に囲まれている土地と言う事である。九重町と言えば「九重夢の大吊橋」2006年10月30日開通、高さ水面より173m、

長さ390m歩行者専用橋として日本一の高さ長さであり、800人の重荷に耐える設計と言う事、開通後の内容は、開通9日目には10万人を超え、わずか24日目に年間目標の30万人を達成、翌年2007年4月には100万人突破、2008年4月には3,000万人に達成する観光の目玉となっている。入場料収入も、総事業費20億円の内7億300万円の地域再生事業費は予定より8年早く完済の見込みであり吊橋を目玉にした観光により、2007年10月より大吊橋の収益の一部を使う町独自の条例を制定、未就学児に限っていた医療費助成の対象を、小中学校に拡大したと言う事。県内の市町村では初めて全国的にもめずらしい取組との説明であった、この夢の大吊橋の経済効果はすばらしいものだと思つた。

わが町も議会と行政が同じ思いで何か特長ある町づくりを目指したい。

議会の概要については、条例定数13人常任委員会(「総務建設産業」「教育民生観光」の二つの常任委員会であり特別委員会は、議会広報、決算審査、高校再編問題対策、大吊橋周辺対策、小中学校再編問題等6つの特別委員会が現在あり、それぞれの問題に取り組んでいと言う事である。決算の審査は9月議会で特別委員会を設置10月・11月にかけて5回程度委員会で審査をし12月議会で報告している。又、12月議会は平成12年より夜間議会を行つていと言う事である。

の町づくりという方向を選択し、行政改革を実施し住民との協働町作を目指して町政運営に努めていると言う町長の説明でした。人口財政については高齢化率23・5%、平均年齢44・2歳、20年度死亡者267人に対し出生者270人と3人の増、転出者1、330人と対し転入者1、436人と106人の増で町民は増加している町である。なお、地方債は町民一人当たり約53万円という事。議会の概要は、総務委員会、産業建設委員会、社会厚生委員会の3つの常任委員会で構成



大分県九重町役場での視察研修

## 総務文教常任委員会所管事務調査

### 研修報告

委員長 森 恵子

8月17日と8月18日の2日間、「まちづくり」をテーマに①地域づくり計画②分野別計画③まちづくり運動の進め方について、福岡県築上町と福岡県福津市を視察研修した。参加者は総務文教常任委員5人と職員7人の合計12人。

築上町は平成18年1月10日旧椎田町と旧築城町が合併人口は2万915人で、高齢化率は28%。議員定数20人。町は平成19年3月に住民計画審議会を立ち上げ、11部会98人で編成された審議会

で実施計画を作り、行政に提  
言している。同時に66地区  
の自治会が、まちづくり3本

柱（生活環境部、自治公民館、  
産業振興部）を基本に平成19  
年度から29年度までを短期・  
中期・後期に分け、地区計画  
書の中から優先順位を決めて、  
実施計画書を毎年11月まで  
に町に提出している。まちづ  
くり運営補助として平均50  
万円（均等割・人数割など）  
を出していて、補助予算は平  
成18年4、500万円、19  
年4、000万円、20年3、  
500万円、21年3、500  
万円。

住民がつくるまちづくり実  
施の**効果**として○地域の実態  
や要望が把握できる○地区実  
施計画に基づく行政が可能○  
優先順位をつけることで地域  
づくり意識が向上する○地区  
独自のアイデアが生かせる  
など。**課題**はリーダーシップ  
によるところが大きいため、  
地域格差が生じる。そのため  
情報や資料を提供して職員が  
協力にあたっている。

**福津市**は平成17年1月24  
日旧福岡町と旧津屋崎町が合

併し、人口は5万5、936  
人で高齢化率は24%、議員定  
数22人。

市は「市民参加によるまち  
づくり日本一」をめざし、概  
ね小学校区（7校区）を単位に  
8地域で地域づくり計画を策  
定して事業が進められている。  
まちづくり支援事業は合併前  
の平成14年から行われていて、  
合併後は「地域づくり計画策  
定市民会議」が発足、「まち  
づくり基本条例」が平成20  
年12月1日に施行され、子  
育て支援、福祉、環境、安心  
安全の4つを必須テーマに携  
げて事業が展開されている。

活動交付金は上限200万円  
で20%までは繰越できる。  
職員の地域担当制が敷かれ  
ていて、平成18年には各地  
域に3人だったものを現在は  
5人に増やし、8地域で合計  
40人が担当している。

また本年度からは試行的に  
郷づくりマネージャー4人を  
採用して、週3日（水木金曜）、  
8時半から夕方5時まで地区  
公民館や集会所などに常駐さ  
せて郷づくり支援を行っている。

更に行政評価制度を導入し

て個人目標設定、評価、検証  
につなげている。

「福津市の市民参加のまち  
づくり」事業の**効果**として、  
○身近な問題がスピーディー  
に解決できる○市民同志のつ  
ながり、交流ができる○地域  
活動に意欲的な人に活動の場  
が提供できるなど。**課題**は活  
動メンバーの拡大。他団体と  
の連携。地域住民への広報。  
区長や自治会との連携などを  
あげられた。

結論として、「まちづくり」  
は市民に認められ、開かれた  
組織であることが重要である  
と指摘された。

研修を通して感じたことは  
和水町のまちづくり施策はま  
だまだ不十分で、住民と一体  
となった取り組みが急がれる  
ということです。



福岡県福津市役所での視察研修

## 厚生常任委員会所管事務調査 研修報告

委員長 笹淵 賢吾

厚生常任委員会所管事務調  
査報告をいたします。

厚生常任委員会は8月3日  
と4日にかけて議員4人と町  
職員4人の参加で行いました。

まず、3日は長崎県壱岐市  
立特別養護老人ホーム寿楽園  
の研修です。研修先では施設  
長とその補佐役の2人の方か  
ら説明を受けました。

壱岐市は平成16年3月1  
日に郷ノ浦町、勝元町、芦辺  
町、石田町の4町が合併した  
ところ。人口は平成20  
年3月31日で31、432  
人です。1年前より361人  
減少しています。面積は13  
8.5km<sup>2</sup>です。

介護老人福祉施設壱岐市立  
特別養護老人ホーム寿楽園は  
昭和46年6月に定員50人の  
施設設置許可を受け、鉄筋  
コンクリート平野建で「公立  
壱岐特別養護老人ホーム寿楽  
園」として事業を開始してい

ます。その後、昭和49年度  
に30床増床、平成元年度に  
20床増床し、現在100床に  
なっています。平成2年度に  
はショートステイ6床増床し、  
平成元年度付属デイサービス  
センターが新築されています。  
施設入所者の年間平均利用  
者数は97.5人と高く、この  
うちの約94%が要介護4と5  
の人になっています。ショート  
ステイの利用状況は5.4人と  
高い状況です。現在の待機者  
は58人になっています。入所  
者は市民病院との連携のもと日  
常的に診察等が行われています。  
平成20年度歳入歳出決算  
額は収入合計が約5億1千万  
円、歳出合計は4億3千万円、  
差し引き7、800万円の黒  
字となっています。職員の状  
況は、介護度の高い入所者が  
多いために介護職員の基準数  
30に対し、常勤44人を確保し、  
手が届くようにしています。